

令和元年度三浦市総合計画審議会（第2分科会） 議事録

- 【日 時】** 令和元年7月25日（木）9:15～11:55
- 【場 所】** 三浦市役所本館4階第1会議室
- 【出席者】** 有吉敏委員、星野拓吉委員、藤田昇委員、玉井恵理委員、笹谷月慧委員、西村真二委員、角田恵美委員、堀田典彦委員、明口祥幸委員
- 【関係職員】** 徳江市長室長、澤口市長室特定事業推進GL、盛永財産管理課長、大滝都市計画課長、鈴木都市計画課開発指導GL、中野高齢介護課長、見上医事課長、浜脇保険年金課長、江原健康づくり課長、石川市民協働課長、大木子ども課長、高梨学校教育課長、増井教育総務課長、矢尾板政策課長

【次 第】

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1) 三浦みらい創生プラン重点施策等の外部評価について
 - (2) 会議録の公表手続きについて
 - (3) その他
- 3 閉 会

【議事録】

1 開 会

事務局（木村部長）

- ただいまより、三浦市総合計画審議会第2分科会を開催する。

2 議 題

(1) 三浦みらい創生プラン（総合戦略）重点施策等の外部評価について

堀田座長

- 評価については、説明する担当課の関係上、施策No.8、9、5、6、10、7、12、4、11の順で進める。
- まず施策No.8について、説明をお願いします。
高梨学校教育課長より施策No.8「三浦らしい海洋教育の実践」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

角田委員

- 退職公務員連盟で地域貢献活動として小学校補習授業の手伝いを今、夏休みでし

ている。昨日、現場の教師にこのことについて情報収集した。

- 総合的な学習が最も関わる部分だと思う。総合的な学習というのは、子どもが何を知りたいのか、何を解決したいのか課題を持って、例えばパソコンで情報収集したりする。一番大きいのは、課題解決のために、私たちは「まちの先生」と呼んでいるが、例えば農業事業者であったり漁業事業者であったり、そういう人たちに直接聞いて解決することで大きな成果を得られる。
- 海洋教育研究で例えば漁業者なら漁業者を、「こういう方がいる」とたくさん情報として持っていて、それを学校に提供してくれるのが大変ありがたいという意見があった。したがって、本施策により子どもの学びに大きな成果があげられている。
- 昨年、「中学校は徐々に評価が上がっていくだろう」と言った記憶がある。日本人全般がそうだが積極的に○をつけることは苦手。でも中学生になって、こういう授業に参加するなどして、自己評価があがっていくと思う。そういう意味で小学校より中学校の評価が重要ではないか。

西村委員

- KPI 1 と KPI 2 のパーセンテージは約 50%。「機会があった」という質問については 75%とある。要は、経験はしているが、愛着度は湧いていないということだと思う。なぜ愛着が湧かなかったか、原因の分析はしているか。

高梨学校教育課長

- 「機会」のほか使われている項目は「今住んでいる地域の行事に参加しているか」「地域や社会で起こっている問題に関心があるか」「地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがあるか」であるが、小学校に関して言うと、学校差がかなりあった。地域行事が盛んな学校は数値が高い。例えば地域ぐるみで祭りがある地域では高かった。しかしならずとこういう結果になる。
- 全体としての分析まではできていないが、海洋教育の学びを通して地域への愛着心を高めようとやっているが、まだ結果が直結して出ていないと感じている。
- 今まで海洋教育イコール磯観察といったように行っていた部分が多かったが、実は地域のことを学ぶとすべて海につながるということが、特に三崎の地域ではある。そのため、もう少し視点を変えながら、地域学習を意識した海洋教育を教育委員会から各学校へ呼びかけているところである。そういう取組を通して、指標が上がっていくのではないかと考えている。

藤田委員

- KPI 1、2 の関連だが、小網代パール協力隊の一員として何回か授業に協力させてもらったことがある。最初は地元から始まったが、市内に波及してきている。現状、真珠の核入れは全校に普及しているか。

高梨学校教育課長

- 真珠は名向小学校だけである。

藤田委員

- 子どもが目を輝かして取り組む機会として非常に良い取組である。卒業の時に自分が核入れした真珠をもらえるかどうかは数に限りがあるので難しいかもしれないが、全市内への広がりをもたせられないか。
- アコヤガイは全国から注目されている。真珠関係の会社が見に来ている。そういうことも含め、まちの先生たちを掘り起こして、発掘して全市に広げていくことが重要だと思うが、いかがか。

高梨学校教育課長

- 真珠については核入れの成功の確率が壁になっている。子どもたちが核入れして、確実に真珠になればおそらく全学校で使える量はあるが、確率の問題があり広げていけない。
- むしろ真珠にこだわらずに地域ごとに三浦らしいものがあるので、そこを扱っていければと考えている。名向小学校で言えば真珠がその一つと考えている。

藤田委員

- 初声ならキャベツウニ、というように各地域に応じて取り組んでいるとは思う。
- 核入れでは実際には自分の入れたものではなく、真珠ができた貝を持ってくるケースが多く、数の面では難しい面があると思うが、ひとつひとつそういう体験をさせるということが子どもにとっては良い学びになるのでぜひお願いしたい。

有吉委員

- 三浦市は、新聞普及が県内自治体でトップである。それだけ文化的な素養、世の中や地域に対する関心は潜在的にある。
- 私の所属する神奈川新聞に限った話ではないが、新聞を軸にした地域学習をやっていけば、新聞社もとりあげていく。そうなれば新聞社が教育事業に協力していただくだろう。そのような枠組み、コンソーシアムのようなものができ、新聞業界あげて三浦市と協力していく、地域への関心を高めるような取組もできると思う。そういう視点で見直しを考えていただきたい。

明口委員

- 新学習指導要領が小学校で始まっていて、ボリュームがこれまでより深く、重くなっている。ただ、地元の本物のことを学べる海洋教育というのは三浦らしい教育だと思う。外の人と出会うには、準備や振り返りも大事だと思う。バランスを上手にとりながら、極力事務的な負担を学校が軽減できるよう、ハブ的な機能を強化して、学校が取り組みやすくしてほしい。
- 教育研究所事業について、全国的に教員が少なくなる中で教職員の資質向上は非常に求められているところだと思う。特に経験10年未満の先生の数がかつてと比べてはるかに増えているので、この事業を含めて様々取り組まれていると思う。引き続き三浦の教育の中心を担う人に対して、県の取組もあると思うが、三浦市とし

でも若手の研修を工夫しながら続けてほしい。5年10年、三浦の教育を支えられる教員の育成を進めていただきたいし、具体的な方法を考えてほしい。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は一部達成しているが、課題改善の取組が明確であるため、「4」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局からお願いする。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・海洋教育を中心とした、いわゆる「まちの先生」から授業を受けることに学びの大きな成果がある。
 - ・教職員の資質向上にも三浦市独自に取り組むと良い。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし

堀田座長

- 次に施策No.9について、説明をお願いする。

浜脇保険年金課長より施策No.9「市民の健康や体力の増進策」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

玉井委員

- 31 ページの KPI の進捗状況のうち大腸がん検診だが、平成 27 年度に 50%まで上がったのが、平成 28 年度に半分になっている。この原因は特定できているか。

江原健康づくり課長

- 対象者の捉え方について、以前は国民健康保険の方は除くという対象の取り方をしていたのが、国からの指定があり、40 歳以上の全ての方を対象とすることになった。この統一化により、対象者が変わったことで受診率が大きく変わった。

角田委員

- 32 ページの新たな取組のところに 40～50 代の若い年代の受診率が低いという記

載がある。私も定年までの間は、共済関係で検診を受けていたが、企業や公務員の方は市立病院ではなく、他できちんと受けていて、それが三浦市の数値に反映されていないということはあるか。

事務局（木村部長）

- 先ほどがん検診について対象が40歳以上全体にひろがったと言ったが、それはがん検診のことだけである。今話をされている特定健診は、国民健康保険に加入されている人だけが対象になっている。

藤田委員

- 特定保健指導については、前年比マイナス13.8%となっている。特定健診の受診率は低いが、保健指導については三浦市は他市と比べても取り組んできていると思うが、これが低くなったのはなぜか。

浜脇保険年金課長

- 今回掲載している数値は速報値である。特定保健指導は特定健診後に結果報告会を行う。指導対象は、動機付け指導、積極的指導があり、積極的指導では、保健指導の期間は、6か月かかる。特定健診は1月31日が最終日。その後保健指導になっていくので、実際に保健指導の確定値が出るのは9月以降となる。
- 今は速報値で掲載しているが、同じ時点で昨年度と比較した場合には、増えている状況である。

藤田委員

- 国保連から派遣された在宅保健師が勧奨しているとあるが、何名がどのくらい勧奨しているのか。

浜脇保険年金課長

- 1名の方に、5月から2月の間、月に3回ほど来てもらっている。
- 人数で800名ほどに電話をしており、その一部には受診もしていただいている。

藤田委員

- 当面引き続き実施してもらえるのか。

浜脇保険年金課長

- 無償で国保連合会に実施してもらっている事業であるため、国保連合会の予算や事業の取り組み方もある。
- 令和元年度については実施してもらえるが、令和2年度以降は国保連合会に相談することになる。

藤田委員

- 新たな取組の中でQRコードは非常に良いと思う。SNSを活用して勧奨できる取組を行うとより良いと思うのでお願いしたい。
- 「その他」の市立病院の中で新規導入した骨密度測定器がある。市立病院に大腿骨骨折で約150人が搬送されると聞いた。そのうち8割の方は骨粗鬆症が原因で骨

折している。骨密度の検査機器が新しくなったことをもっとしっかり周知しながら推進してほしい。MRI も精度が良くなった。金額的にも定額給付金脳ドックを始めてから全国からの脳ドックの患者が増えてきている。いまだに三浦市立病院の脳ドックは低額だということで浸透している。その辺も PR しながら、健診ともリンクしていくような取組をお願いしたい。

有吉委員

- 利用率の伸び悩みは基礎自治体のせいばかりではない。
- 費用や人手といった資源が不足していると思う。例えば 40～50 代の検診率を上げていくには勤め先の理解がないと進まない。むしろ勤め先に啓発をして、「はがきが来ているのだから行きなさいよ」と言ってもらえるようなそういう環境を作っていけないといけない。人の命はお金で買えないもの。啓発にかかる費用を国の機関が手厚くするように求めていった方がよい。

明口委員

- 30 ページの(6)、ピロリ菌対策であるが、陽性者は何人、何パーセントくらいか。

大木子ども課長

- 令和元年度は未確定だが、10 人程度を把握している。

明口委員

- 治療を受けるかどうかはその人次第か。

大木子ども課長

- そのとおりである。

明口委員

- この取組が大事だという声がある一方、逆のことを言う方もいると耳にした。その辺を保護者がきちんと判断することが大事と思うので、丁寧な説明を引き続きしていただくようお願いする。

堀田座長

- QR コードの件だが、スマホから申込ができるのか。

浜脇保険年金課長

- 申込はできない。申込は集団検診と個別検診の 2 種類があり、集団検診は健康づくり課へ、個別検診は医療機関へのお申込みとなる。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は一部達成しているが、課題改善の取組が明確であるため、「4」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・40～50代の若年層の受診率が低いことから、QRコードを含め、SNS等新たな取組をすると良い。
 - ・市立病院は骨密度やMRIの機械が新しくなったことを受けて脳ドックのPRを行うと良い。
 - ・啓発をしていくには勤め先の環境を変えるところから強化する必要があり、国の機関に求めると良い。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし

堀田座長

- 次に施策No.5について、説明をお願いします。

大木子ども課長より施策No.5「子育て世代の経済的負担軽減」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

角田委員

- 30年度の取組の児童虐待防止事業について補足する。グループワーク8回開催、子育てセミナー2回開催 50名参加という記載があるが、グループワーク8回は、1クール8回という意味である。子育てセミナー2回は、対象者がそれぞれ異なる。1回はパパセミナーであった。本当はもう少し増やしたいが、助成金で開催できるのはこれが精いっぱいである。
- 子育て支援センターと連携しているが、リスクの高い親子関係を把握できるのは子育て支援センターだけである。そこで呼びかけて参加していただいた方が3分の1くらいいる。潜在的にはもっといると思う。あとは親子関係をよくするために参加される方もいる。

西村委員

- 子育て支援センターが小羊保育園にあるということだが、子どもを連れて行くには不便な場所ではないか。

大木子ども課長

- 保育園なので駐車場はある。また、三浦海岸駅から徒歩4～5分である。

西村委員

- 市の中心、あるいは子育て世代の方の多い「重心」、つまり分布から見た中心というのがあると思う。この利用率の低さからすると、行きづらさがあるのではないかな。行けない方の話を聞いたりしているか。
- また、1か所しかなく、三崎の方と初声の方からすると遠くなる。例えば引橋のベトナムの市民交流センターのような場所ならもっと行きやすい気がする。

大木子ども課長

- 行っていない方のご意見というのは把握が難しい。現状では話を聞けていない。
- 上宮田の子羊保育園に委託して事業実施している。予算の制限もあるので1か所で実施している。

事務局（木村部長）

- 施設の目的・内容からすると、保育園併設型というのが望ましいと考えている。市内にある保育園は城山、三浦海岸、城ヶ島、初声の4か所である。これらの中では比較的行きやすい場所にあると考えている。
- しかし、市内全域の方が行きやすいかといえば違うと思う。今後センターの数を増やすということは検討していないが、まずは現状通っている人たちがどのような意見をお持ちかを伺っていくことはできると思う。

西村委員

- センターを増やすか、ピックアップしに行くかだと思う。

事務局（木村部長）

- まずはニーズの把握をする必要がある。

星野委員

- KPI 達成に向けた課題と取組だが、直接 KPI 改善につながるものが少ない。子育て世代包括支援事業としては情報提供をしましょう、アンケートを実施します、だけである。もう少し実態にあった対応が必要だというご意見だったと思う。
- 全体として色々なものが関係して子育て支援をやっていくわけだが、特に KPI をあげるということに関して言えば、今のご意見のように場所やニーズの把握をして対応していく必要があるのではないかな。

藤田委員

- 育児サークルの数が6から5に減ったということに関して、サークルの情報提供をするだけでなく、サークルを作ってもらおうという働きかけはしているのか。

大木子ども課長

- サークルは自発的な運営によるものなので、作ってもらおう働きかけはしていない。

藤田委員

- 包括支援センターができたので、サークルを作らないか、という働きかけをするだけで違うのではないかな。そのようなことで活動を広げないと、KPI も伸びていかな

いと思う。支援センターを含め、各施設を活用して、参加率を上げていくだけでなく、サークルを増やすための取組も必要だと思う。

- 児童虐待防止事業について、三浦の場合、ネグレクトが非常に多い。大きな事案は今のところないが、全国的にも育児の問題が起きている中で強化をしていかないといけない。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は未達成であるが、課題改善の取組が明確であるため、「3」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・子育て支援センターの利用率向上の取組について、育児サークルを新規に作る働きかけも行うと良い。
 - ・児童虐待防止の取組を強化すると良い。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし

堀田座長

- 次に施策No.6について、説明をお願いします。

石川市民協働課長より施策No.6「子育て世代のワークライフバランスの推進」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

玉井委員

- 上宮田小学校の児童と話す機会があった。上宮田小学校の場合学童保育に70人くらいいて、2クラスに分かれている。多すぎではないかと感じたが、定員、環境は市で把握しているか。

大木子ども課長

- 把握している。一般的には40人が定員。児童一人あたり1.65㎡を満たす必要があ

る。各学童クラブは対応できている。

角田委員

- 学童クラブは通学している学校内にあるのが保護者は一番安心できると思う。各小学校の適正配置を考えたときに、初声は1校なので問題ないと思うが、南下浦と三崎地区の場合、適正配置を実施後、施設内に設置するということが可能か。

大木子ども課長

- 今後教育委員会とも調整しながら、検討したいと思う。

藤田委員

- 関連するが、KPI 達成に向けた課題と今後の改善策の中にもあるが、現実、適正配置、学校ビジョンが進んでいく中で、バランスをとらないといけない。学校ビジョンと並行して取り組んでほしい。
- ひまわりの工事状況はいかがか。

大木子ども課長

- 夏休み中に工事を行う。8月20日頃までには工事が完了し、8月最終週に移転を計画している。

藤田委員

- ファミリーサポートセンターの進捗状況はいかがか。

大木子ども課長

- 今年度直営にするための制度設計をしている。
- 子どもを預かってくれる人に対する研修が必要になる。他市町村の研修に子ども課の保健師が参加し、研修内容の把握をしている。
- 11月中に三浦市でも研修を実施し、今年度中にファミリーサポートセンターを開設したい。

藤田委員

- 直営ということは、保健師が預かるのか。

大木子ども課長

- 有償ボランティアという形で市民から募集する。

藤田委員

- 児童保育実施事業について、10月から無償化になる。0歳児から2歳児までの保育園の待機児童は把握しているか。

大木子ども課長

- 国の基準による待機児童は0人である。

藤田委員

- 実際には預けられないという現状を聞いている。
- 特に0～2歳児はもともと厳しい中で市内4園のやりくりでまわっていた。しかし実際には入れない方が出ている。

- 無償化で預けようという方も増える。三浦も今までのようには行かないと思う。その対策が必要だと考えるが、いかがか。

大木子ども課長

- ご指摘のとおり実際に入れない方がいる。施設の整備や保育士の確保などとなると大きな問題であるので、各市の状況を参考にしながら対策を検討していくべきだと考えている。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は未達成であるが、課題改善の取組が明確であるため、「3」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・放課後児童クラブについては、小学校適正配置と並行して検討されたい。
 - ・保育園の無償化に伴い、入所の対策を検討されたい。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし

堀田座長

- 次に施策No.10について、説明をお願いします。

**中野高齢介護課長より施策No.10「介護予防と見守り」について資料に基づき説明
(説明略)**

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

西村委員

- 42 ページ（3）支援事業だが、申請方式だと市に来なければいけずに面倒。対象者全員に配布されることがいいことだとすれば、配ってしまった方がいいのでは。その方が100%に近づく。

中野高齢介護課長

- 実際には要件を満たしているかどうかは市役所で把握できない。非課税者は把握

できるが、住民票が市内にあっても居住地が異なる場合もあり、把握が難しい。

玉井委員

- 元気アップ教室の開催について、利用者からのどのような評価を得ているか。

中野高齢介護課長

- 利用者からは好評いただいている。ある地区では隔週で行っていたが、「ぜひ毎週やりたい」というニーズがあり、毎週になった。また、南下浦市民センターでも行っているが、満員状態である。

玉井委員

- 講師の方は市職員か。

中野高齢介護課長

- 事業者に委託して講師を派遣してもらっている。

玉井委員

- 指導者が増えれば開催も増やせるということだと思っているので、もっと充実するとよい。

藤田委員

- 元気アップ教室は好評である。関係団体と連携しながら介護予防を進めていると思う。各自治会の会館など、行われていないところをチェックして、手が届かないところを洗い出して、他団体と協力して介護予防教室を増やせる取組をお願いしたい。
- フレイルサポーターの養成講座は行っていないか。

中野高齢介護課長

- 社協が行っている。現在 30 人くらいである。トレーナーである社協の事務局長に話を聞くと、まだまだサポーターが足りない状況である。

藤田委員

- 生き生きシニア講座は 3 回行っていると思う。もう少しフレイル、虚弱のチェックも重要だと思う。できればオーラルフレイル、歯の部分も連携していけるような介護予防の啓発に繋がるような取組をしてほしい。

中野高齢介護課長

- 市で生き生きシニア講座を 3 回行っている。社協と連携し、待ちの姿勢だと参加人数が増えてこないなので、今年度から社協の方で新規開拓をしている。例えば向ヶ崎地区に出向いてフレイルチェックをしたり、三浦診療所で患者さんに対してフレイルチェックを行うなど取り組んでいる。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標はすべて未達成だが、課題改善の取組が明確であるため、「3」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・元気アップ教室・介護予防教室について、新しい会場の開拓を含めさらなる回数増を図りたい。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし
-

堀田座長

- 次に施策No.7について、説明をお願いします。

矢尾板政策課長より施策No.7「出会いの創出」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

明口委員

- 良い取組だと思う。募集は何人くらいか。

矢尾板政策課長

- 独身男女各10人である。

西村委員

- 京急でまぐろきっぷやプロモーションを行っている。そういうものとタイアップして婚活ツアーを行うようなことも考えられないか。集まる人数も多くなるのではないか。

矢尾板政策課長

- 考えられると思う。基本的にはなるべくお金を使わないように取り組んでいるが、ご意見を参考に検討していきたい。

有吉委員

- カップルになった方に対してメリットはあるか。

矢尾板政策課長

- 現状は特にはない。そのようなご意見もあるので、今後検討したい。

事務局（木村部長）

- カップルになるのが最大のメリットだと思う。もちろん検討はしたい。

堀田座長

- 時期ももう少し開放的なほうがカップル成立も増えるのではないか。

笹谷委員

- 2月は河津桜の時期を見込んで実施したと思う。
- カップル成立率が低いと思うが、参加者から改善点等ご意見はあったか。

矢尾板政策課長

- 自己紹介や市内をめぐる時間も設けた。昨年度はうらり、今年は下町散策を考えている。一緒に作業をした方が良いのではないかという意見もあり、今回はジェルキヤンドルづくりを取り入れることを計画している。
- まだ始めて1回だけなので、色々な部分を研究しながら少しでも手助けになるよう行っていきたい。

笹谷委員

- テレビでの婚活の様子を見ると、イベント自体を楽しむと割り切っている方も多い。今どきの方はドライなこともあるが、イベントのプログラムが多いとそちらに気が行ってしまい、当人同士をよく見る機会や時間が少なくなる。お相手を見るチャンス、ゆっくりした時間を提供するといいいのでは。

矢尾板政策課長

- ご指摘のとおりだと思う。検討していきたい。

藤田委員

- テレビでもそうだが、サポーター、つなぐ人が必要。
- そういう場に参加する方は自分の意思を伝えられない方が多いと思う。よく話をして相手のことが分かるようになる、つなぎをしてくれるサポーターを用意してカップリングを目指した取組をしてほしい。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は未達成だが、課題改善の取組が明確であるため、「3」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・京急のまぐろきっぷ等とのタイアップを検討されたい。
 - ・カップル成立の特典を検討されたい。

・カップル成立率向上に向け、お互いを良く知るための時間・機会の提供やサポーターによる支援等の工夫をすると良い。

- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし
-

堀田座長

- 次に施策No.12 について、説明をお願いします。

大滝都市計画課長より施策No.12「空き家対策」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

藤田委員

- 空き家対策計画が策定される見込みで、令和2年度から特定空き家に対する措置等具体的に進めていくと思う。平成27年度から都市計画課が窓口となり空き家への対応をしている。平成30年度は5件だが、これまでの累計は何件解体されたか。

鈴木都市計画課開発指導GL

- 平成27年度以降、指導してきた結果解体にいたったものは14件である。

藤田委員

- 特定空き家に指定しなくても、交渉しながら粘り強くやってきたのは非常に評価できる。
- 資料に記載の212件というのは管理されていない空き家だと思うが、特に危険なDランクは現在何件くらいあるか。

鈴木都市計画課開発指導GL

- 現在Dランクとしているのは平成31年3月末現在で27件。

藤田委員

- 個別に取組を進めている案件があると思うが、この27件は大変危険を伴う空き家だと思う。KPIの目標は達成しているが、引き続き取組を進めてもらいたい。
- 利活用については徐々に増えていると思う。宅建協会など様々な団体との協力関係もできつつあると思う。定住促進につながるような空き家の利活用を進めてほしい。

星野委員

- KPIの達成率が向上した理由をどう考えているか。

大滝都市計画課長

- 昨年度は大きな台風があった。老朽化とともに対策を要する物件が増えたのも事

実である。そのような物件の所有者と交渉を粘り強く行った結果だと思う。

星野委員

- 所有者の方も意識としてはある。きっかけを与えることが必要で、継続した取組が必要だろう。

堀田座長

- 危険な空き家はさらに増えていく場合もあるのか。

大滝都市計画課長

- ご指摘のとおりである。毎年老朽化で悪くなっていく。加えて災害や風の強さもあり、傷み具合も悪くなっている実感がある。

笹谷委員

- 空き家バンクについて、賃貸用3件、売却用2件を新規登録し、利用希望者を募集したとあるが、利用希望者としてどのような方を対象としているのか。

鈴木都市計画課開発指導GL

- 基本的には空き家バンクに登録された家に住んでいただく方、移住者を募集している。

笹谷委員

- 例えば民泊のように夏休みだけ親子1週間くらいで貸すといった利用方法等で宿泊施設として使うことはできるか。

鈴木都市計画課開発指導GL

- これまで、利用希望者の方から短期間で3ヶ月だけ借りたいという希望はあった。そういう希望があれば市を介して家主と協議し、家主さんの了解が得られれば短期間でも貸すという調整を行ったことはある。

笹谷委員

- 富士山の近くの一軒家を旅館代わりに利用できます、というのを家族が見つけて借りて楽しんでいたことを聞いたので、そのように時々使えたと空き家もそれほど傷まず維持でき、所有者の収入になるのではないかと。三浦でもそういう利用をしたい方がいたらいいと思う。

星野委員

- 今の状態のまま貸せるなら、そういう方法もあると思う。いくらか資金を出して整備する必要があると不動産屋、業者が行うならできるが、個人ではなかなか難しいかと思う。
- また、市内でも色々な条件がある。三崎の街中のもの、畑の中のものでは使い方も違うと思うのでその情報も必要になる。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は達成しているため、「5」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・危険な空き家の対策を引き続き徹底して行ってほしい。
 - ・空き家バンクについては定住促進のためにも活用すると良い。
 - ・空き家の利活用方法を検討すると良い。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし

堀田座長

- 次に施策No.4について、説明をお願いします。

徳江市長室長より施策No.4「ライフステージ・ライフスタイルに応じた多様な居住の促進」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

玉井委員

- 移住相談窓口での相談件数 122 件について、相談があった後、具体的にどのように動いているか。

事務局

- 電話や来庁での相談等がある。色々なケースがあり、一概には言えないが、そこで質問に回答して完結するものもある。さらに三浦市のことを知りたいという希望があれば、市内を一緒にご案内することもある。

玉井委員

- 市内の案内というのは不動産屋に行くこともあるのか。

事務局

- そういうケースもある。地域の環境を見たいと言うことであれば、そこまで行って自然環境を確認したり、スーパーがここにあるといったご案内をするケースもある。

有吉委員

- かながわ信用金庫さんが事務局となっている三浦半島地域活性化協議会という組

織がある。弊社や京浜急行さんも入っている。横須賀市や三浦市のご協力もいただき、トライアルステイの取組も一昨年くらいから進めている。昨年度はトライアルステイに至らなかったが、関東学院や横浜市大の学生に声かけして、まずは横須賀三浦の良いところを見てもらおうということで、どぶ板通りに行ったり、長井漁港に行ったりした後に、夏にステイしましょうという段階になったら「楽しいところは見たからいいです」となってしまい、募集が1名しかなかった。

- 今年度はやり方を変えて、トライアルステイの時に就業体験ができるようにした。現在10名近く集まっている。関東学院、横浜市大以外からも応募があった。
- 人気の理由の一つに、三浦、横須賀の役所で体験ができるということがあった。風光明媚なところで公務員の仕事もできるというニーズは潜在的にある。そういった視点での呼びかけ、しかけがあれば良いのではないか。働いてもらえれば確実に定住してもらえる。学生に話を聞くと三浦に住んで横須賀市に勤めて、と考えている人もいる。

堀田座長

- 活性化協議会は比較的若い人の意見が集まる場だと思う。就活や職業体験と絡めたトライアルステイを行うことや、セミナーハウスのようなものにするというイメージも出てきていると聞いている。
- 質問だが、市内の業者が自社物件を提供する中での「条件の良い物件」という表現があるが、どういうものか。

徳江市長室長

- 従前は都内の不動産事業者だった。自社物件がなく、ゼロから物件を選んで交渉することから始めていた。それが必要なくなり、すでに持っている中から比較的良い場所、特色のある場所を選んでいただいた。例えば三崎下町、三崎口そばの新築物件を提供していただいた。物件そのものが新しかったり、立地が良かったりした。また、調度品についてもテレビやソファなどもご用意いただけた。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は一部達成しており、課題改善の取組が明確なため、「4」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、

- ・トライアルステイについて、就業体験を取り入れることなどを検討されたい。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

一同

- 異議なし
-

堀田座長

- 次に施策No.11について、説明をお願いします。
盛永財産管理課長より施策No.11「市有財産の適切な管理運営」について資料に基づき説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

藤田委員

- 37件中4件を策定とのことだが、残りの個別計画33件の進捗状況はいかがか。

盛永財産管理課長

- 10月に策定の指針を作ろうとしている。
- 公共施設等総合管理計画で最終的な目標を掲げている。それに向けて進めるためには指針を財産管理課で作成しないと各担当の部署が個別計画を作れないと考えている。

藤田委員

- 長寿命化計画との整合性をとる必要があると思うがいかがか。

盛永財産管理課長

- 部署によっては長寿命化計画を作るよう国から求められているところもある。
- 令和2年度までに策定しなさいというものもある。そこは守っていかないといけない。

藤田委員

- 長寿命化計画との整合性を図りながら取り組んでいただきたい。
- 城山地区利活用検討事業であるが、地域プラットフォーム形成支援の中で、具体的な進捗状況はいかがか。

徳江市長室長

- 昨年度は城山地区だけでなく、例えば二町谷地区の管理運営方法の検討なども行った。城山地区についていえば、観光活用の可能性をセミナーのような形で検討して委員の中で意見交換を行った。

藤田委員

- 令和元年度はいかがか。

徳江市長室長

- プラットフォームのコンサルを活用し、利活用方針を作り、事業者募集を行うこと

を考慮しており、今年度は利活用方針案を作成する考えである。

藤田委員

- 三崎高校跡地のB地区とは別で事業者募集していくという形になるか。

徳江市長室長

- 市役所移転の候補地として考えると、候補地が先にできないと動けないため、あくまでもセットであることは間違いない。しかし例えばフェーズ分けをするといったことは考えられる。そういったことも含めて今年度検討したい。

堀田座長

- 今回 KPI が達成できなかった第一の原因というのは指針を作成できなかったということ。今回の課題についてはそれができれば、当初の計画どおり進んでいくという解釈でよいか。

盛永財産管理課長

- そのとおりである。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- 目標は未達成だが、課題改善の取組が明確であるため、「3」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 外部評価における主な意見としては、
 - ・ 公共施設等総合管理計画の個別計画については長寿命化計画との整合性も踏まえて策定されたい。
- これらを主な意見として記載したいと思うがよろしいか。

堀田座長

- 次に、議題1の外部評価のうち、地方創生に係る交付金事業の評価について、政策課より説明をお願いする。

矢尾板政策課長より、資料11について説明（説明略）

堀田座長

- 今の説明に質問、意見があるか。

藤田委員

- 交付金事業は今年度で終了する。先ほど地元で行うようシフトしていくという話があった。令和2年度どのような形を考えているか。

徳江市長室長

- 今受託している事業者が基本的に自前で取り組む意向を持っている。市としては宣伝を担うことを考えている。事業者は協賛金を募って実施していこうとしている。それが上手くいけば、規模は分からないが引き続き実施していただけると伺っている。そこの部分の支援を今年度行っていく考えである。

藤田委員

- 補助金は出さないで行うということか。

徳江室長

- そのように考えている。

堀田座長

- それでは、この事業の外部評価をさせていただく。
- K P I 達成状況は芳しくなかったが、取組が前進しているため、地方創生に効果的であったため、「2」としたいがよろしいか。

一同

- 了承

堀田座長

- それでは、そのように決定する。
- また、主な意見欄についての記載の概要を事務局から願います。

事務局（矢尾板政策課長）

- 交付金事業評価における主な意見としては、特になかったが、施策評価の際に関連したご意見があったので、その内容を同じくこちらにも記載したい。

一同

- 異議なし

（3）会議録の公表手続きについて

堀田座長

- 次に、「会議録の公表手続きについて」、事務局より説明をお願いします。

事務局

- 本日の審議会以降、審議会を開催する予定がない。そこで、今回の審議会の議事録については、事務局で案を作成して各委員へ配布し、修正すべき点等を指摘いただき、それらを踏まえた修正を行ったうえで、座長一任で議事録を確定し、その後、

ホームページでの公表という手続きにしたいと考えている。

堀田座長

- ただいまの説明に対し、質問・意見等はあるか。なければ、お諮りする。
- 「会議録の公表手続きについて」、事務局からの説明のとおり決定してよろしいか。

一同

- 異議なし。

堀田座長

- それでは、そのように決定する。

(4) その他

堀田座長

- 次に、その他について、事務局より何かあるか。

事務局（矢尾板政策課長）

- 特になし。

3 閉会

堀田座長

- 以上で本日の議題は全て終了した。ここで、事務局に進行を戻す。

事務局（木村部長）

- 本日は、出席いただき感謝申し上げます。
- また、貴重な意見をいただき感謝申し上げます。皆さんの貴重な意見を生かし、より良い事業へ見直していきたいと思う。
- 以上をもって、令和元年度三浦市総合計画審議会第2分科会を終了する。